取扱説明書

DAYTONA corp.
R77544①/⑩

*取り付けする前に必ずお読み頂き、内容をよく理解して正しくお使いください。
*この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。
*この商品もしくはこの商品を取り付けた車両を第三者に譲渡する場合は、必ずこの取扱説明書も併せてお渡しください。

HOTGRIP キット （エンド非貫通/コネクタータイプ）	適応車種	商品NO.
	アドレスV125S/ベーシック/SS〈L0/3〉 アドレスV125/G〈K5/6/7/9〉 ※リミテッド〈ZK7/9, ZL1/3〉不可	77544

■ご使用前に必ず、ご確認ください■

※ 取扱説明書内の注意事項を守らずに使用した事による事故や損害について、当社では一切の責任は負いません。
※ 商品の保証については保証書裏面の保証規定に沿って行っております。保証内容をご理解のうえ、この取扱説明書と一緒に保管してください。

本書では正しい取り付け、取扱方法および点検整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

⚠警告	要件を満たさずに使用しますと、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
⚠注意	要件を満たさずに使用しますと、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

禁止	禁止の行為であることを告げるものです。	高温注意	表記の注意を告げるものです。
実施	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。	その他	その他の警告及び注意を告げるものです。
分解禁止	表記の禁止行為を告げるものです。		

⚠警告

禁止

- 濡れた手で作業を行わないでください。作業中感電する恐れがあり大変危険です。
- **付属のグリップボンドの完全硬化時間は、グリップ挿入組付放置後約 24 時間です。この間必要以上にグリップを動かしたり、脱脂ケミカルなどの塗布、走行使用することなどは絶対にお止めください。** ボンドが安定せず、接着不良でグリップが抜ける危険性があります。ボンド接着不良やワイヤリング不備、グリップ固定状態の未点検などに起因するグリップ抜けトラブルや事故につきましては、如何なる場合でも当社では一切の責任を負いかねます。予めご了承ください。

⚠注意

実施

- 車種専用品につき、記載されている適応車種以外の車両には使用しないでください。
- 認証工場など、適切な設備と技能、専門知識のある整備士を有した店舗にて脱着作業を行ってください。作業が適切に行われないと、作業中やご使用中に車両や部品を損傷したり、不備が発生する場合があります。商品自体に瑕疵がなく発生した不具合や事故につきましては、当社では一切の責任を負いかねます。予めご了承ください。
- 取付作業を行う前に（1）商品構成や外観に不備がないことの確認、（2）**左右 HOTGRIP の単品導通テスト（温まるかどうかの確認）を必ず行ってください。**車体装着後に発生した HOTGRIP 導通不良（温まらない）は保証対象外であり、脱着にかかわる諸費用などは一切補償できません。万一お気付きの点がございましたら、必ずこの単品導通テストの段階でお買い求めの販売店に速やかにご相談ください。

2013/07/30

 実施	• 取付作業を行う前に必ず車体側バッテリーの状態確認を行い、異常あれば必ず満充電（または新品交換）してください。その後も必ず定期的にバッテリーの状態確認を行ってください。 • 車体バッテリープラス側端子カバーへの挿入のしやすさを考慮して、**純正バッテリー端子固定ボルトよりも幅狭の Y 型端子（φ4）を採用しております。**端子の先開部をボルトネジ山に沿って挿し込み、横に広げた Y 型端子が不用意に抜けない状態で確実に取り付けてください。 • **付属のグリップボンドは流動性が高いため、グリップ組付時に余剰なボンドがはみ出したり、グリップエンド部から垂れ落ちて車体の一部に付着する場合があります。**各部操作性を損なったり、塗装部位の変色など外観を損なう原因となりますので、予め十分な組付スペースを設けたり、支障のないハンドル角度にセットするなど、十分留意して作業してください。 **※. グリップ組付時にはみ出した余剰ボンドは、この段階では乾いたウエスで荒く拭き取る程度とし、細部については完全硬化（24 時間）後に除去してください。**ボンド完全硬化前に必要以上にグリップを動かしたり脱脂ケミカルなどを塗布すると、ボンドが安定せず接着不良となる危険性があります。 • **HOTGRIP 組付固定は付属のグリップボンド＋指定箇所へのワイヤリングにて確実に行い、車体装着後も走行使用前に都度、必ずグリップ固定状態の確認を行ってください。**ボンド接着不良やワイヤリング不備、グリップ固定状態の未点検などに起因するグリップ抜けトラブルや事故につきましては、如何なる場合でも当社では一切の責任を負いかねます。予めご了承ください。 • 取付後約 100km 走行しましたら各部に異常がないかどうか必ず点検してください。その後も約 500km 毎に必ず定期点検を行ってください。この作業を怠ると、ご使用中の車両や部品に不備が発生する場合があります。商品自体に瑕疵がなく発生した不具合や事故につきましては、当社では一切の責任を負いかねます。予めご了承ください。 • 走行中に異常が発生した場合は直ちに車両を安全な場所に停車させ、異常箇所を点検してください。
 分解禁止	• 商品の分解や追加工（何れも保証対象外）は絶対に行わないでください。予期せぬ不具合発生や重大な事故の原因となる場合があります。
 高温注意	• この商品はグリップ暖房機能の ON/OFF はできますが、温度調整はできません。グローブ着用の有無にかかわらず、30 分に 1 回程度を目安にスイッチを OFF にし、長時間の連続使用は行わないでください。予期せぬ低温火傷を発症する場合があります。
 その他	• お客様記入欄・販売店記入欄をご記入の上、保証書はレシートと共に大切に保管してください。保証書を紛失したり、販売店記入欄に店舗記載・捺印のない場合、新品購入履歴が不明な場合などは無効となり、当社所定の商品保証を受けられませんので、予めご了承ください。 • 車体から取り外した使用しない純正部品は、損傷・紛失なきようお手元にて必ず保管してください。 • この商品は適応車両のノーマル車体にて取付作動確認を行っております。市販のカスタマイズパーツに交換していると条件が異なる場合があり、**他社製品との組み合わせは未確認（保証対象外）です。**予期せぬ不具合や事故が発生したとしても当社では一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。 • **付属のスロットルスリーブはリブ無しタイプの純正類似品です。グリップ組付クリアランスやスロットル開度は純正と若干異なりますので、予めご了承ください。** • この商品は省電力設計（消費電力約 18W）ですが、車体装着後頻繁にストップ＆ゴーを繰り返すような短距離走行使用や、エンジン非稼動状態での HOTGRIP 使用（車体側メインスイッチ ON＋HOTGRIP スイッチ ON で、エンジン稼動の有無にかかわらず暖房機能が ON となります）、他の電装部品同時装着などのご使用状況下によってはバッテリーの消耗を早めたり、車体の電力バランスが崩れて（供給電力よりも消費電力が大きくなり）バッテリー上がりを引き起こす原因となる場合があります。 • HOTGRIP 使用（スイッチ ON）はエンジン始動後に行うよう心掛けてください。ご使用状況下によってはバッテリーの消耗を早めたり、車体の電力バランスが崩れて（供給電力よりも消費電力が大きくなり）バッテリー上がりを引き起こす原因となる場合があります。 • HOTGRIP が暖まるまでには多少時間が掛かります。急速暖房などの温度調整機能はありませんので、気になる場合は暖気運転を長めに行っていただくことになりますが、長時間の暖機運転はバッテリーを痛めますのでこの点は十分ご留意ください。 • **リレー本体やスイッチ、ハーネスなど、この商品の構成部品は完全防水設計ではありません。**長時間の雨天走行使用や同環境下での駐停車、高圧洗車などにより接続コネクター部に水が溜まると、ご使用期間の多寡によらず、浸水による部品故障（保証対象外）の原因となります。十分ご留意ください。 • この商品は予告無しに価格や仕様を変更する場合があります。また、文中にて紹介した他の商品についても同様です。予めご了承ください。

本商品の特徴

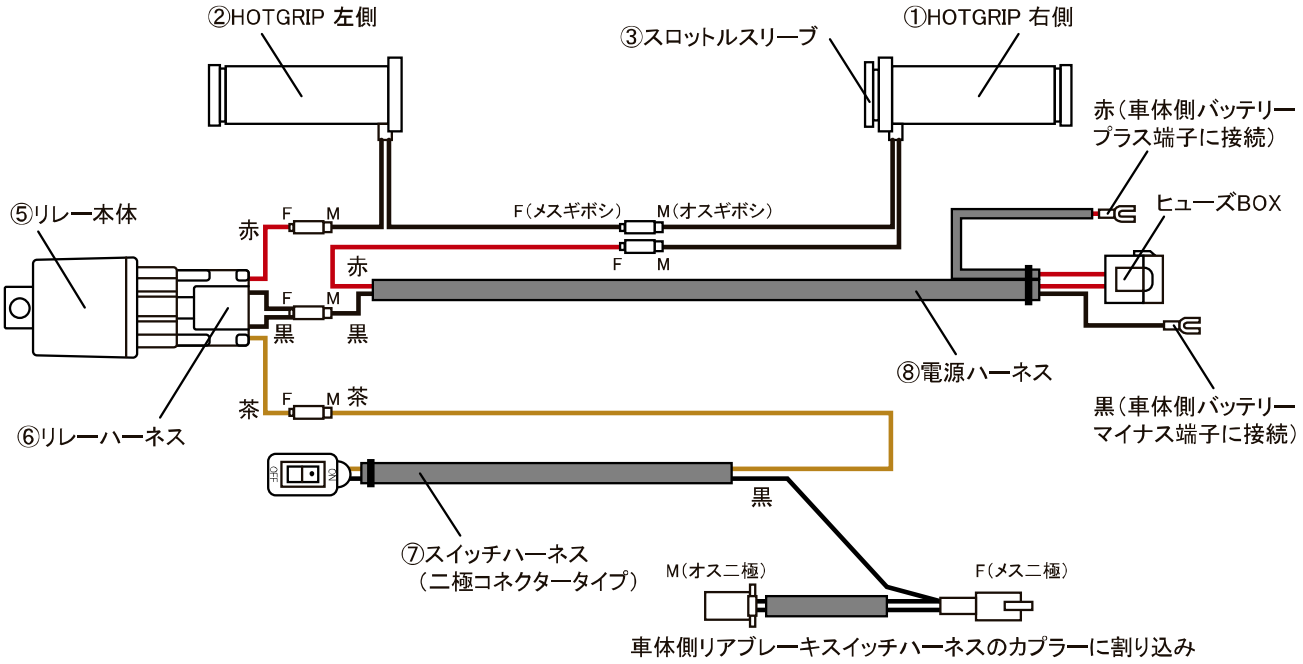
- 車種専用 HOTGRIP キット。ヒューズ&リレーを介したバッテリー直接続により、車体側電力供給能力に応じた安定暖房効果が得られます。DC12V 専用。消費電力約 18W。
- 左右 HOTGRIP（全長約 115mm/エンド非貫通）、専用スロットルスリーブ（リブ無しタイプ）、ウレタン系グリップボンド、電源ハーネス（3A ブレードヒューズ BOX 付き）、リレー&リレーハーネス、スイッチハーネス（二極コネクタータイプ）など必要部品が一式付属。設定車種に無加工装着できます。

商品内容

NO	パーツ名	サイズ(mm)	数量	NO	パーツ名	サイズ(mm)	数量
①	HOTGRIP ショート（エンド非貫通）右側	概寸内径 φ25.4	1	⑦	スイッチハーネス（二極コネクタータイプ）		1
②	HOTGRIP ショート（エンド非貫通）左側	概寸内径 φ22.0	1	⑧	電源ハーネス（3A ヒューズ BOX 付き）	全長約 1000mm	1
③	スロットルスリーブ		1	⑨	両面テープ		1
④	グリップボンド（10g）		1	⑩	結束バンド（黒）	150mm	5
⑤	リレー本体		1	⑪	結束バンド（黒）	80mm	5
⑥	リレーハーネス		1	⑫	ステンレスワイヤー		2

接続概要図

※. 商品全体の接続概要を下図にて正しくご理解ください。



単品導通テストについて

※. 取付作業を行う前に（1）商品構成や外観に不備がないことの確認、（2）左右 HOTGRIP の単品導通テスト（温まるかどうかの確認）を必ず行ってください。車体装着後に発生した HOTGRIP 導通不良（温まらない）は保証対象外であり、脱着にかかわる諸費用などは一切補償できません。万一お気付きの点がございましたら、必ずこの単品導通テストの段階でお買い求めの販売店に速やかにご相談ください。

※. このテストは必ず左右 HOTGRIP 個々で行ってください。グリップが断線していないかどうかの簡易テストにつき、グリップ配線を左右接続した状態や、キット配線を全て接続した状態では行わないでください。

1. 正常な 12V バッテリー（または直流安定化電源器）のプラス/マイナス端子に①HOTGRIP（右側）のギボシ端子を各々接続し、グリップに温もりを感じられたらテスト終了（正常）です。

※. **グリップに温もりを感じられた時点（約 1 分程度）で速やかにテストを終了してください。**この状態で必要以上にグリップを温めると、グリップ内部の発熱線故障やバッテリートラブルなどの原因となります。

※. テスター（回路計）を使用してグリップ抵抗値を測定することもできますが、左右グリップの製品個体差や周囲の温度環境などによって表示される値が前後します。この単品導通テスト（温まるかどうか）にて異常なければ表示抵抗値に多少のバラツキがあっても良品につき、この点は予めご了承ください。

2. ②HOTGRIP（左側）も同様に単品導通テストを行ってください。

取付方法 1：グリップ接着までの手順

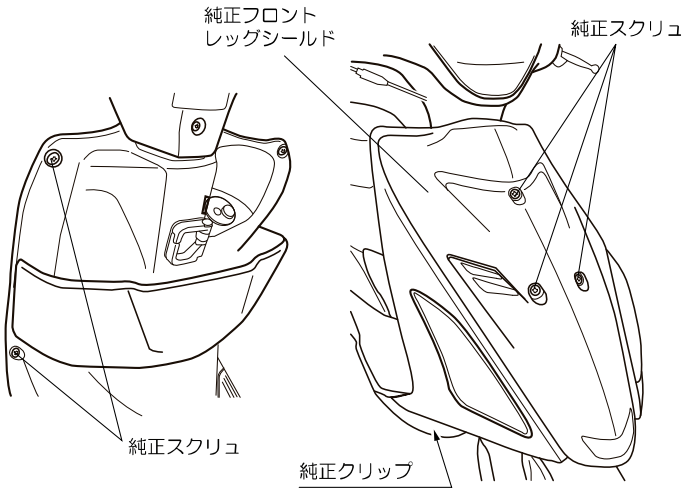
※. 以下の記載はアドレス V125S<UZ125SL0>をもとに当社で検討した内容につき、純正部品の脱着方法などの詳細につきましては車両メーカー発行の作業マニュアルにて必ずご確認ください。

※. 安定した平らな場所で、作業中に車体が不用意に倒れることがないよう必ず安全を確保した上で、慎重に作業してください。また、予め車体バッテリーを取り外し、接続ハーネス端子を絶縁した上で作業を行ってください。

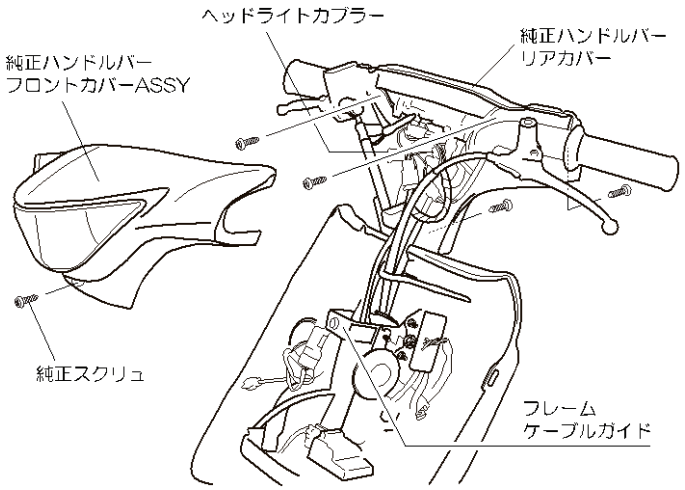
※. 付属のグリップボンドの完全硬化時間は、グリップ挿入組付放置後約 24 時間です。この間必要以上にグリップを動かしたり、脱脂ケミカルなどの塗布、走行使用することなどは絶対にお止めください。ボンドが安定せず、接着不良でグリップが抜ける危険性があります。

1. 後側より純正スクリュ（左右各 2 ヶ）、前側より純正スクリュ（3 ヶ）、フロントタイヤ奥側の純正クリップ（左右各 1 ヶ）を各々外し、ツメに注意しながら純正フロントレッグシールドを手前に引き抜き、内部の純正フロントウインカー（左右）のカプラー接続を外し、純正フロントレッグシールドを車体から取り外します。
2. 純正ブーツ（右）を上にずらし、純正ミラーアダプター（下側の右ネジナット部）を反時計回りに緩め、純正ミラーASSY（右）を取り外します。
3. 純正ブーツ（左）を上にずらし、純正ミラーアダプター（下側の右ネジナット部）を反時計回りに緩め、純正ミラーASSY（左）を取り外します。

※. 手順 2~3 にて、純正ミラーアダプター上の左ネジナット（ミラー固定ナット）は緩めないでください。

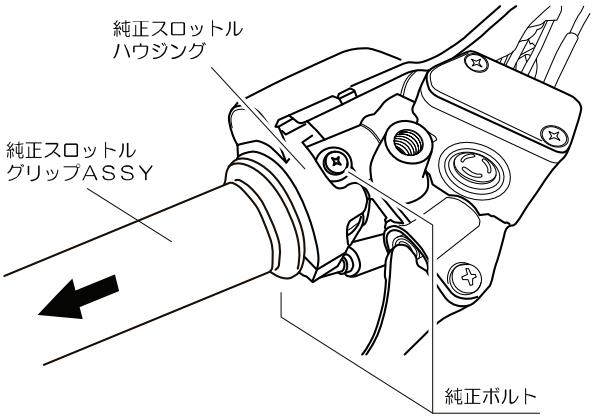


4. 後側より純正スクリュ（左右各 1）、前側よりヘッドライト下の純正スクリュ（1 ヶ）を各々外し、ツメに注意しながら純正ハンドルバーフロントカバーASSY（純正ヘッドライト UNIT が付いた状態での前側カバー全体）を手前に引き抜き、内部の純正ヘッドライト UNIT のカプラー接続を外し、純正ハンドルバーフロントカバーASSY を車体から取り外します。
5. 後側より純正スクリュ（1 ヶ）、内部より純正ミラーホルダー奥側にある純正スクリュ（左右各 1 ヶ）を外し、純正ハンドルバーリアカバーをフリーの状態にします。



6. 純正ボルト（2 ヶ）を外し、純正スロットルハウジングを分解し、内部の純正スロットルケーブル（タイコ部）をスリーブから外し、純正スロットルグリップ ASSY を車体から取り外します。
7. 手順 5 でフリーの状態にした純正ハンドルバーリアカバーを後方にずらし、純正ハンドルバー（左側グリップ取付部）とのクリアランスを十分に確保します。

※. 左側グリップ挿入作業時に余剰なボンドがリアカバーなど車体の一部に付着することを避けるためのクリアランスがあれば十分です。リアカバーを完全に取り外す必要はありません。



8. 純正同等のグリップ（左側）組付クリアランスが確保できるよう、油性マーカーなどで純正ハンドルバーにグリップ（左側）挿入限度位置を予めマーキングしておきます。
9. 純正ハンドルバーリアカバーやハンドルバーなど他の車体部位を傷付けないよう注意しながら、ハンドルバーに接着されている純正グリップ（左側）を慎重に取り外します。

※. 純正グリップ（左側）の内側に付着している接着剤の残りカスはキレイに取り除いておいてください。

10. 純正ハンドルバーのグリップ取付部（左側）に付着している接着剤の残りカスをキレイに取り除き、無用な汚れや油分の付着がないよう十分に脱脂乾燥します。

※. 汚れ落としや脱脂乾燥が不十分だとボンドが安定せず、接着不良でグリップが抜ける危険性があります。

11. 左側グリップ挿入作業に支障のないハンドル角度にセットし、手順 7 で確保した純正ハンドルバーリアカバーと純正ハンドルバー（特にグリップ取付部）とのクリアランスを再度確認します。

※. 付属のグリップボンドは流動性が高いため、グリップ組付時に余剰なボンドがはみ出したり、グリップエンド部から垂れ落ちて車体の一部に付着する場合があります。各部操作性を損なったり、塗装部位の変色など外観を損なう原因となりますので、予め十分な組付スペースを設けたり、支障のないハンドル角度にセットするなど、十分留意して作業してください。

12. ②HOTGRIP（左側）の内側と純正ハンドルバーのグリップ取付部（左側）に④グリップボンドを均一に塗布し、手順 8 でマーキングしたグリップ挿入限度位置を超えないよう留意しながら、②HOTGRIP（左側）のツバ部配線取出口が進行方向斜め下側（リアブレーキレバーホルダーの上からグリップ配線が引き込める向き）となるよう、時間をおかず純正ハンドルバーに真っ直ぐ慎重に組み付けます。

※. グリップは真っ直ぐ挿入してください。不用意にねじるとグリップ内部の発熱線が断線する原因となります。

※. グリップを過度に挿入すると、純正ハンドルバーリアカバーが正しく組み戻せません。

※. グリップ組付時にはみ出した余剰ボンドは、この段階では乾いたウエスで荒く拭き取る程度とし、細部については必ず完全硬化（24 時間）後に除去してください。ボンド完全硬化前に必要以上にグリップを動かしたり脱脂ケミカルなどを塗布すると、ボンドが安定せず接着不良となる危険性があります。

13. ②HOTGRIP（左側）の全周を手で軽く押さえて内部のエアを取り除き、ボンド完全硬化（約 24 時間）までそのまま放置します。

14. ③スロットルスリーブに有害なバリがないことを確認し（万が一あった場合は事前に取り除いてください）、手順 6 で取り外した純正スロットルグリップ ASSY 同等のグリップ（右側）組付クリアランスが確保できるよう、油性マーカーなどで③スロットルスリーブにグリップ（右側）挿入限度位置を予めマーキングしておきます。

15. ③スロットルスリーブに無用な汚れや油分の付着がないよう十分に脱脂乾燥します。

※. 汚れ落としや脱脂乾燥が不十分だとボンドが安定せず、接着不良でグリップが抜ける危険性があります。

16. ①HOTGRIP（右側）の内側と③スロットルスリーブのグリップ取付部に④グリップボンドを均一に塗布し、手順 14 でマーキングしたグリップ挿入限度位置を超えないよう留意しながら、①HOTGRIP（右側）のツバ部配線取出口がスリーブのタイコ取付部に重なる向きとなるよう、時間をおかず③スロットルスリーブに真っ直ぐ慎重に組み付けます。

※. グリップは真っ直ぐ挿入してください。不用意にねじるとグリップ内部の発熱線が断線する原因となります。

※. グリップを過度に挿入すると、純正スロットルハウジングとの間に所定のクリアランスが確保できず、スロットル操作に支障をきたす原因となります。

※. スロットル ASSY 組付時にはみ出した余剰ボンドは、この段階では乾いたウエスで荒く拭き取る程度とし、細部については必ず完全硬化（24 時間）後に除去してください。ボンド完全硬化前に必要以上にグリップを動かしたり脱脂ケミカルなどを塗布すると、ボンドが安定せず接着不良となる危険性があります。

17. ①HOTGRIP（右側）の全周を手で軽く押さえて内部のエアを取り除き、純正スロットルハウジングには組み付けずに、ボンド完全硬化（約 24 時間）までそのまま放置します。

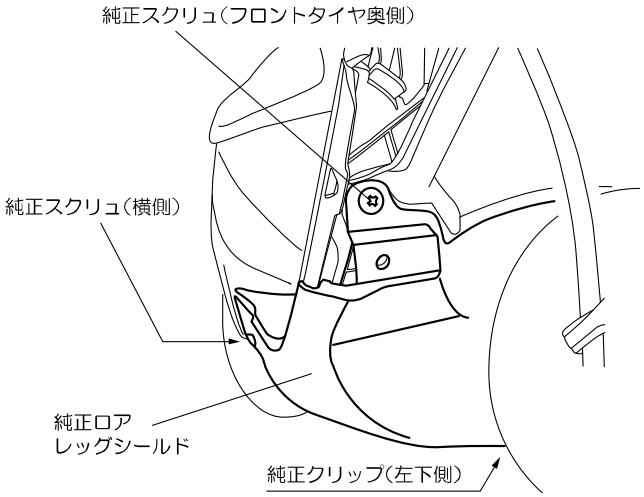
※. ①/③スロットルグリップ ASSY の車体への組付作業は、必ずボンド完全硬化（約 24 時間）後に行ってください。
スロットルグリップ ASSY 組付直後は、ASSY 内部（グリップエンド付近など）に硬化していない余剰ボンドが沈殿・付着している場合があり、そのまま純正スロットルハウジングに組み付けるとスロットル操作に支障をきたす原因となります。

取付方法２：ハーネス類の取り回し手順

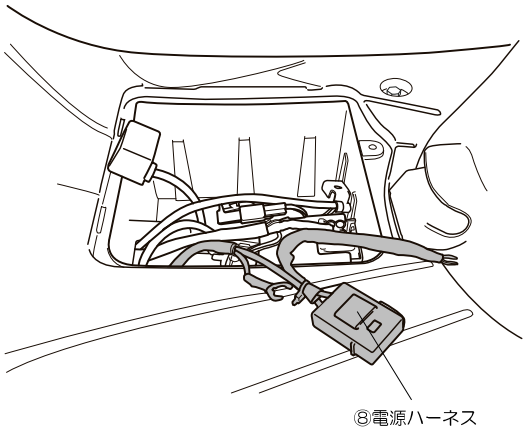
※. 事前注意事項は「取付方法 1」と同じですが、①/②HOTGRIP はボンド完全硬化（約 24 時間）状態であることを前提としております。早計な作業によるボンド接着不良やワイヤリング不備、グリップ固定状態の未点検などに起因するグリップ抜けトラブルや事故につきましては、如何なる場合でも当社では一切の責任を負いかねます。予めご了承ください

18. 前側（フロントタイヤ奥側）より純正スクリュ（左右各 1）、左下側より純正クリップ（1 ヶ）、横側より純正スクリュ（左右各 1）を各々外し、ツメに注意しながら純正ロアレッグシールドを取り外します。

19. 純正スクリュ（2 ヶ）を外し、純正メンテナンスリッド NO.1（車体バッテリー収納部の蓋）を取り外します。



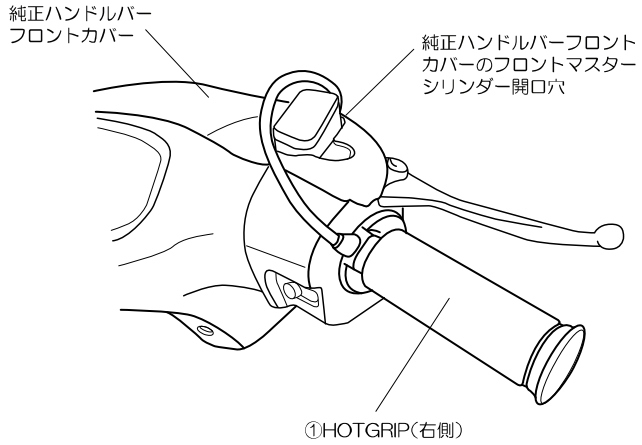
20. 車体バッテリー収納スペース奥の開口穴に⑧電源ハーネスのギボシ配線を挿入し、下側より車体フレーム左側の純正リアブレーキケーブルに沿わせるようにして、純正フロントレッグシールド内側中央のフレームケーブルガイド付近まで無理なく配線を取り回します。



21. 手順 13 で純正ハンドルバーに接着した②HOTGRIP（左側）周辺と、手順 17 で組み付けた①/③スロットルグリップ ASSY 内外部に沈殿・固着している無用な余剰ボンドをキレイに取り除きます。その後、手順 5 とは逆の手順で、純正ハンドルバーリアカバーを車体に元通り組み付けます。

22. 手順 6 とは逆の手順で、純正スロットルハウジングに①/③スロットルグリップ ASSY を組み付けます。純正ヘッドライト UNIT カプラーを車体接続し、脱落・傷付きに注意しながら純正ハンドルバーフロントカバーASSY を車体に仮組みし、フロントマスターシリンダー開口穴（右側）より①HOTGRIP（右側）のギボシ配線を内部に引き込み、純正ハンドルバーに沿わせるようにして、車体中央まで無理なく配線を取り回します。

※. この時、軽くスロットル操作を行い、作動に問題がないことを必ずご確認ください。また、グリップ配線の取り回しや取り出し量は、必ず実走行に支障がない状態としてください。



23. ②HOTGRIP（左側）のギボシ配線を純正ミラーホルダー（左側）の上側より内部に引き込み、純正ハンドルバーに沿わせるようにして、車体中央まで無理なく配線を取り回します。

※. グリップ配線の取り回しや取り出し量は、必ず実走行に支障がない状態としてください。

24. 純正リアブレーキスイッチハーネスのカプラー接続を外し、⑦スイッチハーネスのカプラー（オス/メス）を割り込ませて各々接続します。

25. ⑥リレーハーネスに⑤リレー本体を組み付け、⑥リレーハーネスのメスギボシ配線（黒）と⑧電源ハーネスのオスギボシ配線（黒）を接続します。

26. ⑧電源ハーネスのメスギボシ配線（赤）と①HOTGRIP（右側）のオスギボシ配線（黒）（どちらでも可）を接続します。

27. ①HOTGRIP（右側）のもう片方のオスギボシ配線（黒）と②HOTGRIP（左側）のメスギボシ配線（黒）を接続します。

28. ②HOTGRIP（左側）のオスギボシ配線（黒）と⑥リレーハーネスのメスギボシ配線（赤）を接続します。

29. ⑥リレーハーネスのメスギボシ配線（茶）と⑦スイッチハーネスのオスギボシ配線（茶）を接続します。

30. 作業前に取り外した車体バッテリーを車体収納スペースに元通り収納します。

※. この時、各ハーネス端子の絶縁不良に起因する配線ショートなどには十分ご注意ください。

31. 車体バッテリー接続ハーネス（プラス側）同様に、プラス側端子カバー内に⑧電源ハーネスのＹ型端子配線（赤）を引き込み、端子接続作業に支障がない程度まで配線を引き出します。

32. バッテリー端子固定ボルト（プラス側）を一旦緩め、ボルトネジ山に沿って⑧電源ハーネスのＹ型端子配線（赤）の先開部を横に広げながら十分挿し込み、その下に車体バッテリー接続ハーネス端子（プラス側）を挿し込み、ボルトを締めてバッテリー（プラス側）に両配線を確実に取り付け、両配線が不用意に抜けない状態であることを十分確認した上で、プラス側端子カバーをバッテリー端子部に被せます。

33. バッテリー端子固定ボルト（マイナス側）を一旦緩め、ボルトネジ山に沿って⑧電源ハーネスのＹ型端子配線（黒）の先開部を横に広げながら十分挿し込み、その下に車体バッテリー接続ハーネス端子（マイナス側）を挿し込み、ボルトを締めてバッテリー（マイナス側）に両配線を確実に取り付け、両配線が不用意に抜けない状態であることを十分確認します。

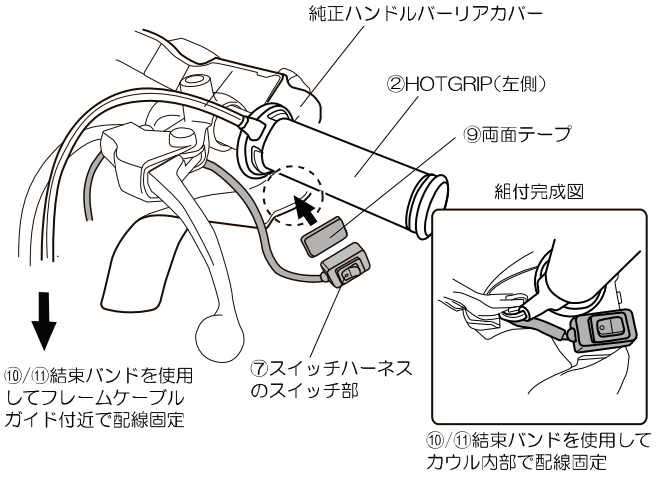
34. 換気に十分留意しながらエンジン始動し、⑦スイッチハーネスのスイッチを ON にし、①/②HOTGRIP が問題なく作動すること（温まること）を確認します。尚、異常の有無にかかわらず、以降の作業は必ずエンジン停止後に行ってください。

※. この時点で万が一作動不良となった（グリップが温まらない）場合は、⑦スイッチと車体側メインスイッチを OFF にし、車体バッテリーの端子接続を外し絶縁した上で、配線接続など各部に異常がないかどうか入念にご確認ください。

※. ①/②HOTGRIP の作動に問題がない（温まる）ことが確認できたら、速やかに⑦スイッチと車体側メインスイッチを OFF にし、以降の作業は必ずエンジン停止状態にて行ってください。適切な排気設備のない締め切った室内では、不用意にエンジン始動しないでください。排気ガスには有毒な成分が含まれておりますので、一酸化炭素中毒などにより死亡、または重度の後遺障害などを引き起こす危険があります。

35. ⑦スイッチハーネスのスイッチ部側の配線を純正リアブレーキスイッチハーネスに沿わせるようにして、純正リアブレーキレバーホルダーの下（左側）付近まで無理なく取り回します。

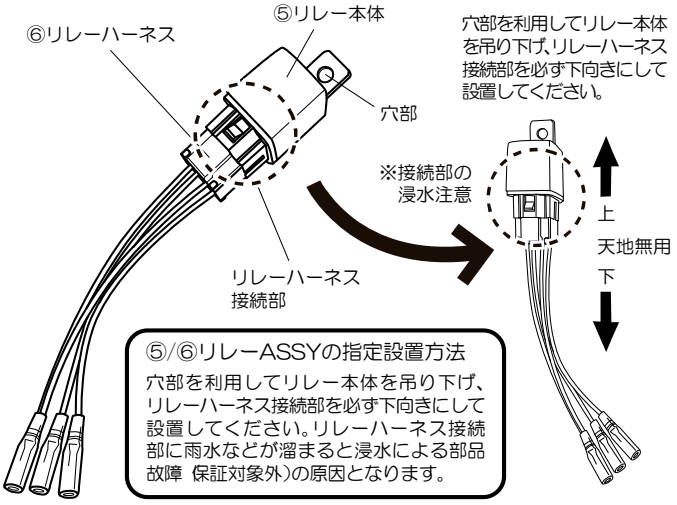
36. ⑦スイッチハーネスのスイッチ部裏側と純正ハンドルバーリアカバーの左側グリップ下の空きスペースを十分に脱脂乾燥し、⑨両面テープを使用して、②HOTGRIP（左側）の斜め下にスイッチを貼り付けます。



37. ⑩/⑪結束バンドを適宜使用して、手順 20～36 で組み付けた商品ハーネス類を支障のない車体箇所（ハンドルバーやフレームステー、ケーブル類など）に一旦仮固定（または余剰ハーネス類を束ねて仮結束）します。ハンドルをゆっくりと左右に動かし各部に無用な負荷が掛からないこと、端子接続部や構成部品自体に雨水などが溜まらない状態であることなどを十分確認した上で、⑩/⑪結束バンドを本固定（本結束）してください。また、市販の絶縁テープなどを適宜使用し、商品各接続部の抜けや浸水を抑止してください。

※. リレー本体やスイッチ、ハーネスなど、この商品の構成部品は完全防水設計ではありません。長時間の雨天走行使用や同環境下での駐停車、高圧洗車などにより接続コネクター部に水が溜まると、ご使用期間の多寡によらず、浸水による部品故障（保証対象外）の原因となります。十分ご留意ください。

※. 商品ハーネス類の取り回しや固定（結束）、取り出し量などは、必ず実走行に支障のない状態としてください。①/②HOTGRIP の配線、⑤/⑥リレーASSY の設置向き（穴部を利用してリレー本体を吊り下げ、リレーハーネス接続部を必ず下向きにして設置してください。リレーハーネス接続部に雨水などが溜まると浸水による部品故障の原因となります）、⑦スイッチハーネスの平型端子配線（黒）の出代（引き出し量）は特に入念にご確認ください。



38. 手順 1～4、手順 18～19 とは逆の手順で、取り外した純正部品を車体に元通り組み付けます。

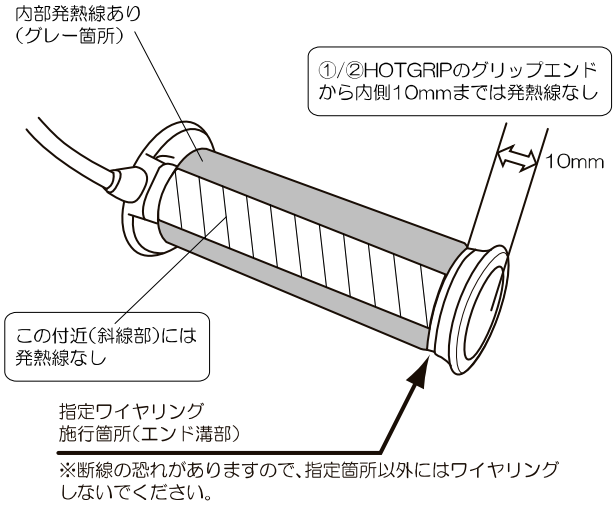
※. 純正メンテナンスリッド NO.1（車体バッテリー収納部の蓋）を組み付ける際、⑧電源ハーネスのヒューズ BOX を内部に無理なく収めてください。

39. ⑫ステンレスワイヤー（2 ヶ）を使用して、①/②HOTGRIP の指定箇所（エンド溝部）に各々ワイヤリングします。

※. このワイヤリング作業に不備があると、ご使用中にグリップが抜ける場合があり、大変危険です。取り扱い時のケガやワイヤー締めすぎによるグリップ損傷には十分留意し、適切にワイヤリングを施してください。

※. 指定箇所（エンド溝部）から内側のグリップ部には発熱線が入っています。断線の恐れがありますので、指定箇所以外にはワイヤリングしないでください。

40. 換気に十分留意しながら再度エンジン始動し、各部に異常がなければ作業完了です。



補修部品

商品名	品番	本体価格（税抜）	備考
HOTGRIP ショート（エンド非貫通）右側	71546	￥2,600	①HOTGRIP（右側）×1、⑫ステンレスワイヤー×1
HOTGRIP ショート（エンド非貫通）左側	71547	￥2,600	②HOTGRIP（左側）×1、⑫ステンレスワイヤー×1
スロットルスリーブ	70360	￥800	③スロットルスリーブ×1
グリップボンド（10g）	70225	￥550	④グリップボンド×1
リレー本体	72854	￥750	⑤リレー本体×1
リレーハーネス	77388	￥900	⑥リレーハーネス×1
スイッチハーネス（二極コネクタータイプ）	77395	￥1,400	⑦スイッチハーネス×1、⑨両面テープ×1、⑪結束バンド（80mm）×5
電源ハーネス（全長約 1000mm）	77398	￥1,600	⑧電源ハーネス×1、⑩結束バンド（150mm）×5

FAQ（よくある質問）

質問	回答
グリップは短くカットできますか？	グリップエンドから溝部まで（約１０mmの範囲まで）はカットできますが、それよりも内側のグリップ部には発熱線が入っていますので、他の部分は一切加工できません。
ワイヤリングはしなくても良いですか？	ワイヤリングは指定箇所に必ず行ってください。ワイヤリングが不適切だと、ご使用中にグリップが抜ける場合があり（保証対象外）、大変危険です。
他のバイクではもっと温かかったけど・・・	この商品はヒューズ&リレーを介したバッテリー直接続により、車体側電力供給能力に応じた安定暖房効果が得られます。グリップ内部の発熱線に異常がない（温まる）場合は、本品を装着使用されている現車なりといわざるを得ませんので、予めご了承ください。
左側グリップの温度が低く感じるけど・・・	左側グリップはグリップラバーが肉厚で、且つハンドルに直接取り付くため、相対的に熱伝導率が高いハンドル素材にグリップの熱が逃げてしまう場合があります。構造上ある程度の温度差は止むを得ませんので、予めご了承ください。
グリップが抜けてきた（ボンドの接着が剥がれてねじれてきた）のですが・・・	**そのままでのご使用は大変危険です。** HOTGRIP は製品特性上、ご使用中グリップを固定している接着剤がグリップヒーター熱の影響を受けますので、ボンド接着状態が不十分となるとグリップが抜ける危険性があります。そのため、**HOTGRIP 組付固定は指定のグリップボンド＋指定箇所へのワイヤリングにて確実に行い、車体装着後も走行使用前に都度、必ずグリップ固定状態の確認を行ってください。また、万が一異常があれば直ちにグリップを取り付け直してください。**ボンド接着不良やワイヤリング不備、グリップ固定状態の未点検などに起因するグリップ抜けトラブルや事故につきましては、如何なる場合でも当社では一切の責任を負いかねます。予めご了承ください。
最近急に温まらなくなったんですが・・・	まずはグリップ単品導通テストを行い、内部発熱線の断線など異常がないことを確認ください。グリップ内部の発熱線に異常がある場合は修理不能につき、異常のあるグリップを新品の補修グリップに交換してください。また、グリップ内部の発熱線に異常がない（温もりを感じる）場合は、**配線接続など各部に異常がないかどうか入念にご確認ください。**
グリップは断線していないのに作動しなくなったのですが・・・	リレー本体やスイッチ、ハーネスなど、この商品の構成部品は完全防水設計ではありません。**長時間の雨天走行使用や同環境下での駐停車、高圧洗車などにより接続コネクター部に水が溜まると、ご使用期間の多寡によらず、浸水による部品故障（保証対象外）の原因となります。**十分ご留意ください。尚、故障した部品は速やかに新品の補修部品に交換してください。

東証JASDAQ上場 株式会社デイトナ　〒437-0226　静岡県周智郡森町一宮 4805
URL: http://www.daytona.co.jp
◎デイトナ商品についてのご質問、ご意見は「フリーダイヤルお客様相談窓口」0120-60-4955 まで